



組織のチームビルディングに 「moritomirai」

| モリトミライ |



社員研修での活用広がる

山梨日日新聞社・山梨放送が進める「やまなしSDGsプロジェクト」の一環として展開しているカードゲーム「moritomirai」(モリトミライ)を、企業や行政機関がチームビルディング研修として活用する動きが広がっています。目的達成

甲府建材商会

連携促す「気付き」が成果

甲府建材商会(甲斐市万才、中込茂社長)は昨年8月、役員・社員約50人を対象に、モリトミライを使った社員研修を実施しました。

同社は主要事業が外構・エクステリア営業、生コンクリート製造・販売、建築資材販売に分かれ、事務所も事業などによって複数あるため、



コミュニケーションについて学んだ社員研修

会社全体としてのコミュニケーションや部門間の連携に課題を感じていました。社員研修実施後のアンケートでは、「コミュニケーションは共通の目的があれば自然と深まっていくことが体感できた」「人の意見を否定せず受け止める『対話』の方法によって、チーム内でより良い意見が出るということを学んだ」といった意見が出たそうです。

研修を担当した同社の猪股祐介さんは「日常業務で役に立つ貴重な気づきがとても多くありました。研修として今後も定期的にモリトミライを実施しても効果があると感じています」と話していました。

のために不可欠なコミュニケーションや連携の重要性を、参加者が体験を通して気が付けるというモリトミライの特性が、組織が抱える課題へのアプローチに効果的なためです。県内で社員研修に活用していた2社の事例を紹介します。

澤田屋

対話通じて新理念が浸透



モリトミライを対話の場づくりに活用した

るのではなく、立場を越えて気軽に対話する場を作りたいと考えていました。役員、社員の計16人で行い、導入部分で同社の新しい理念について発表、ゲーム後に理念についてグループで対話をするという形式を取り、「私と社員たちとの間に感じていた壁がなくなったように感じ、理念が浸透したという感触もありました」(黒澤社長)といます。

和菓子製造・販売の澤田屋(甲府市向町、黒澤晋太郎社長)は2024年5月、新たに作った会社の理念を社員に浸透させるきっかけとして、モリトミライを活用した理念浸透研修を行いました。同社は、会社の新しい理念について一方的に社員に伝えるのではなく、立場を越えて気軽に対話する場を作りたいと考えていました。役員、社員の計16人で行い、導入部分で同社の新しい理念について発表、ゲーム後に理念についてグループで対話をするという形式を取り、「私と社員たちとの間に感じていた壁がなくなったように感じ、理念が浸透したという感触もありました」(黒澤社長)といます。

対話できる強い組織を生み出すツール

公認ファシリテーター
アドヴォネクスト 代表取締役社長
井上雅博さん



企業や各種団体は、さまざまな価値観を持った方々が、同じ目的地を目指して航海する船のようなものです。無事に目的地に着くためには、乗組員のコミュニケーションが欠かせません。「モリトミライ」は年齢や部署を越えて本音で語り合える場を自然に生み出し、対話を通じて個人と組織の価値観がつながる実感を得られるツールです。

その他、さまざまな活動も展開していきます!